

高金利通貨およびオーストラリア・ドル、
ニュージーランド・ドル、カナダ・ドル、
ノルウェー・クローネ、インドネシア・ルピア、中国・人民元
マンスリー・レポート



ブラジル



メキシコ



トルコ



南アフリカ



オーストラリア



ニュージーランド



カナダ



ノルウェー



インドネシア



中国

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



ブラジル



【足元の金融市場の動き】～ブラジル・リアルは景気底入れ期待などから下げ渋り～
 ブラジルでは個人消費関連の指標には底堅さもみられますが、世界景気の減速を受けて、製造業の景況感や輸出関連の経済指標が軟調に推移しています。このため政策金利は0.25%引き下げられ7.25%となりました。ブラジル・リアルは利下げ観測を受けて弱含む場面がありましたが、景気底入れ期待も出ており下げ渋る動きとなりました。

【当面の金利・為替の見通し】～ブラジル・リアルは通貨高抑制と利下げ打ち止め観測からレンジ相場か～
 景気については、足元では底入れの兆しもみられます。実質GDPの先行指標とされる月次の経済活動指数が改善が続いていることなど、これまでの1年超にわたる利下げの効果が浸透しつつあるように思われます。ただ外部環境の不透明感が増しており、主要輸出品である鉄鉱石などの資源価格が下げていることもあり、回復は緩やかなものにとどまるとみられます。ブラジル・リアルは、政府の自国通貨高抑制の動きがある一方で、利下げ打ち止め観測、高金利通貨としての優位性などから当面レンジ内での動きが続くとみています。



メキシコ



【足元の金融市場の動き】～メキシコ・ペソは株高、米指標から強含むも軟調な原油価格を受けレンジ相場～
 メキシコでは製造業では良好な指標もみられましたが、小売売上、消費者信頼感指数などの個人消費関連の指標が減速しました。政策金利は据え置かれました。メキシコ・ペソは株価の上昇や米国雇用市場の改善などが好感され強含むましたが、一方で原油価格の上値の重さもあり、レンジ内での動きとなりました。

【当面の金利・為替の見通し】～メキシコ・ペソは堅調に推移か～
 景気については、自動車輸出が増加基調となっており、日本からも生産拠点として進出が加速しています。米国の雇用状況の改善が続けばこのところ減額傾向にあった海外就労者からの送金の増加も期待できます。ただ景気が緩やかに減速に向かいつつあることや消費者物価が上昇していることが気掛かりです。当面の政策金利については、物価上昇傾向がみられるものの世界経済の先行き不透明感もあり据え置かれるとみています。メキシコ・ペソは足元では国内景気、米国雇用情勢の改善などから、堅調に推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



トルコ



【足元の金融市場の動き】～トルコ・リラは強含んだ後、経済指標の悪化、追加金融緩和観測などから下落～
 トルコでは、製造業PMIが上昇し経常収支の改善が進んだ一方、鉱工業生産が減少するなど景気の減速傾向もみられました。政策金利は据え置かれていましたが、上限金利である翌日物貸出金利が引き下げられました。トルコ・リラは10月初旬まで強含んだ後、鉱工業生産への失望、追加緩和観測などから下げました。

【当面の金利・為替の見通し】～トルコ・リラは景気や経常収支の改善を受けて底堅い動きか～
 景気については、減速が続いていますが底打ちは近いとみています。最近では経常収支も改善が進んでいます。中央銀行は9月に上昇した消費者物価について今後は鎮静化傾向に戻るとしています。また同行は先進国の量的緩和を受けた短期資金の国内流入、地政学的要因によるエネルギー価格の動向や穀物価格についても注視しており、翌日物貸出金利や準備預金による緩和気味の金融調節を継続するとみられます。混乱の続く隣国シリアとの緊張感が高まっていますが、市場は平静が保たれていること、政府の打ち出した財政緊縮継続が通貨価値の安定に寄与するとみられることなどから、トルコ・リラは底堅い動きになるとみています。



南アフリカ



【足元の金融市場の動き】～南アフリカ・ランドはストライキの拡大・長期化に対する懸念から大幅に下落～
 南アフリカの政策金利は5.0%に据え置かれました。南アフリカ・ランドの対円での動きは、貿易赤字が拡大したこと、小売売上高やPMIが市場予想を下回ったことを受けて軟調に推移し、鉱山で発生したストライキが他の業界に波及・長期化し同国経済に対する影響や国債の格付け動向が懸念されたこともあり、10月に入り一段安くなりました。

【当面の金利・為替の見通し】～南アフリカ・ランドは調整一巡後には底堅く推移か～
 景気については、ストライキの拡大・長期化を受けた企業の生産活動の停滞の影響から、今後は同国景気の減速が鮮明になるとみられます。減速傾向にあったインフレについては、足元ではやや加速しています。同国準備銀行は当面は政策金利を据え置くとみられますが、景気やインフレ動向を注視しつつ、将来的には追加利下げに踏み切る可能性もあると考えられます。南アフリカ・ランドは、ストライキ情勢や格付け動向には注意を要しますが、金利水準が相対的に高いこともあり、調整一巡後は底堅く推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の結果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



オーストラリア



【足元の金融市場の動き】～オーストラリア・ドルは、貿易収支の悪化、利下げなどを受けて下落～
 オーストラリアでは、企業景況感などで悪化がみられた一方、雇用者数が増加するなど国内経済指標は強弱まちまちでした。しかし世界景気の先行き不透明感が強まっていることなどから政策金利は0.25%引き下げられ3.25%となりました。オーストラリア・ドルは中国景気の悪化などによる鉱物資源の輸出の減少、欧州債務問題の後退による逃避資金の本国回帰の動きに加え、利下げもあり軟調となりました。

【当面の金利・為替の見通し】～オーストラリア・ドルは高い金利水準と中国景気の不透明感からレンジ相場か～
 景気については、中国の景気鈍化を受けて主要資源の価格は下落に転じており、2008年の金融危機後も国内景気を牽引してきた資源セクターの鈍化が懸念されています。しかし利下げが再開されたことで個人消費や住宅市場の底上げが期待されます。また物価が落ち着いていることから追加利下げ観測もあります。オーストラリア・ドルは利下げ後も同国の金利水準が高いこと、国債の高格付などの優位性がある一方で、中国景気の先行き不透明感や追加利下げ観測もあり、レンジ内での動きになるとみています。



ニュージーランド



【足元の金融市場の動き】～ニュージーランド・ドルは外部環境の悪化を受けて下落～
 ニュージーランドでは、4～6月期の実質GDPが+0.6%（前期比）と市場予想を上回る堅調な内容となりました。農業や畜産業などの1次産業や建設業が成長に寄与した一方、公益事業がマイナスに影響しました。経済指標については住宅建設許可件数や住宅価格指数などにも堅調な伸びがみられた一方、製造業およびサービスの各PMI、個人消費関連指標はやや軟調でした。ニュージーランド・ドルは、スペインの支援要請の先送り観測や世界景気の減速懸念など外部環境の悪化を受けて弱含む展開となりました。

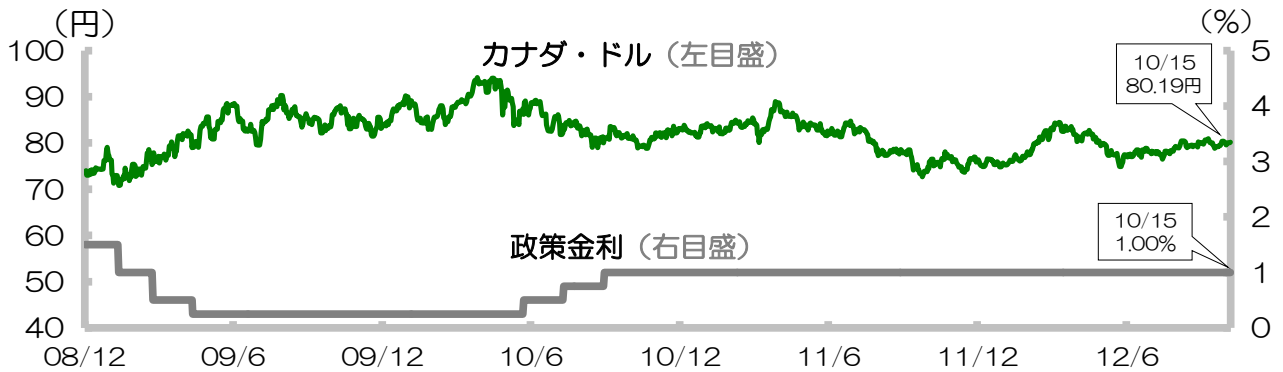
【当面の金利・為替の見通し】～ニュージーランド・ドルは、堅調な景気や金利水準への魅力から底堅く推移か～
 景気については、乳製品をはじめとする1次産業品、住宅関連、復興需要を背景とした建設関連などが牽引役として期待される一方、緊縮財政による景気の下押し、本国通貨高による国内産業への影響もあり、緩やかな回復にとどまるとみています。政策金利は、本国通貨高への懸念に加えて期待インフレが抑制されていることなどから、当面据え置かれるとみています。ニュージーランド・ドルは、世界的な金融緩和と政策の中、堅調な国内景気に加えて相対的に金利水準が高く選好されやすいとみられることから、底堅く推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の結果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



カナダ



【足元の金融市場の動き】～カナダ・ドルは原油価格の下落など投資家心理の悪化を受けて下落～

カナダでは、7月の実質GDPが+0.2%（前月比）となりました。製造業や公益事業が成長に寄与した一方、原油やガスなどの鉱業がマイナスに影響しました。8月の消費者物価指数は+1.2%（前年比）となり、依然として低水準に抑えられています。カナダ・ドルは、欧州債務問題に対する懸念が残ったことや原油価格の下落など、リスク回避的な動きがやや強まったことから月末にかけて下落しました。ただ10月に入り、米国およびカナダで良好な経済指標が多くみられたこともあり、下落幅を縮小しました。

【当面の金利・為替の見通し】～カナダ・ドルは米国の追加金融緩和から底堅く推移か～

景気については、個人消費や企業投資などを中心に緩やかに回復していくとみられます。ただ、家計債務が高止まっており、今後の個人消費や住宅市況への悪影響が懸念されます。また中央銀行の業況調査では企業の景況感の悪化もみられました。政策金利については、引き締め策への転換の可能性もありますが、自国通貨高による製造業への影響が懸念されることや、外部環境も考慮し当面据え置かれるとみています。カナダ・ドルは、米国の金融緩和による景気回復期待などから、底堅く推移するとみています。



ノルウェー



【足元の金融市場の動き】～ノルウェー・クローネはユーロに連動して下落～

ノルウェーの政策金利は1.50%に据え置かれています。ノルウェー・クローネの対円での動きは、スペインへの支援問題に対する不透明感からユーロが軟調に推移したことを受けて下落しました。その後はスペインの銀行に対するストレステスト結果の発表を受けて欧州債務問題に対する懸念が幾分後退したことから反発する場面もありましたが、IMFがユーロ圏成長率予想を引き下げたことなどから再び下落しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ノルウェー・クローネは底堅く推移か～

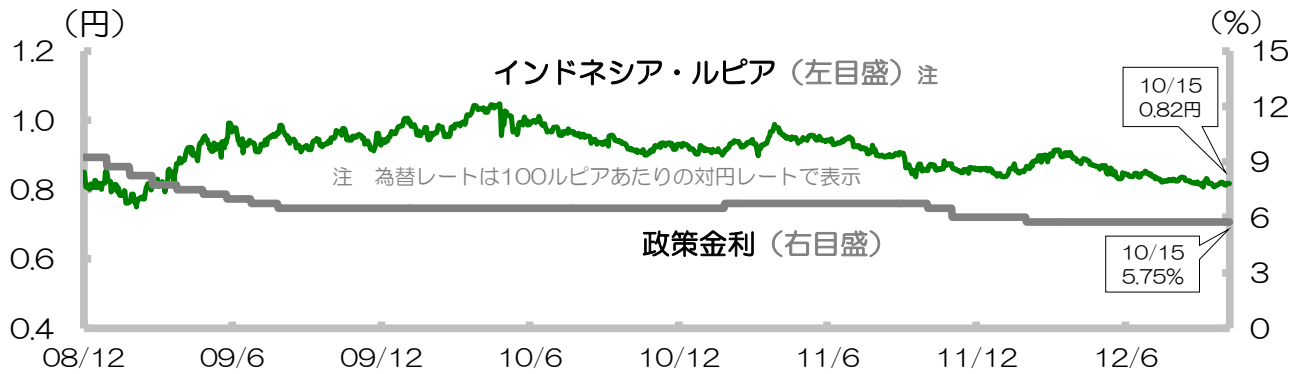
景気については、鉱工業生産が小幅ながら増加しましたが、小売売上高が鈍化し、PMIが2カ月連続で景気判断の分かれ目となる50を下回ったことなど、引き続き欧州景気の悪化や通貨高の影響による減速が続いています。同国中央銀行は、当面、現在の政策金利を維持し、国内の景気動向に加えて上昇基調にある住宅価格やユーロに対し高値圏で推移する為替動向を注視するとみられます。ノルウェー・クローネは、景気回復は極めて緩やかとみられますが、健全な財政・経常収支を背景に、底堅く推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは毎月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



インドネシア



【足元の金融市場の動き】～インドネシア・ルピアは、貿易収支の改善などもありレンジ内での推移～

インドネシアでは、9月の消費者物価指数(前年比)は+4.31%と4カ月ぶりに減速しました。8月の貿易統計では、輸出入とも前年比で大幅に減少し、貿易収支は5カ月ぶりに黒字に転換しました。政策金利については、消費者物価の上昇率が落ち着いていることもあり、据え置かれました。インドネシア・ルピアは、経常赤字への懸念が残る一方、米国の量的緩和第3弾の決定を受けて資金流入期待が高まったことや、貿易収支に改善がみられたことなどもあり、ほぼレンジ内での推移となりました。

【当面の金利・為替の見通し】～インドネシア・ルピアは、レンジ内での推移か～

景気については、海外景気の影響が懸念されますが、国内では消費者信頼感指数が高水準にあり、個人消費やインフラ投資など内需中心に堅調とみられます。政策金利については安定したインフレ見通しから据え置かれるとみられます。ただ中央銀行総裁は国内景気に慎重な見方をしており、年内は対米ドル為替レートを一定水準に保ち、景気安定を図る方針を示しました。インドネシア・ルピアは、経常赤字への懸念が残りますが、先進国の金融緩和や堅調な内需を受けた資金流入期待からレンジ内での推移になるとみています。



中国



【足元の金融市場の動き】～中国・人民元は先進国の金融緩和、国内の景気対策への期待から上昇～

中国では、製造業PMI(政府発表)は49.8と2カ月連続で景気拡大の節目となる50を下回りました。一方、消費者物価指数は+1.9%(前年比)と落ち着きがみられ、輸出入やマネーサプライは改善しました。中国人民銀行は預金準備率や政策金利を据え置き、市場への資金供給を拡大しました。中国・人民元は先進国の金融緩和を受けた資金流入、景気対策への期待などから上昇し、対米ドルでは1993年末以降の最高値を更新しました。

【当面の金利・為替の見通し】～中国・人民元は国内の景気浮揚策への期待から底堅く推移か～

景気については、減速が続いており、回復が当初の予想以上に遅れています。共産党大会を11月に控え、市場では追加の景気刺激策への期待感も根強くありますが、主要輸出先である欧州の景気減速は長期化するとみられることから、同国景気の回復は緩やかなものになるとみられます。金融市場では、流動性が依然として逼迫が続いていることから、金融緩和策は継続して実施されるとみられます。中国・人民元は、先進国の金融緩和、国内の景気刺激策に対する期待から、引き続き底堅く推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。